

心ゆたかに

—部落差別をはじめあらゆる差別をなくするために—

2023年(令和5年)12月1日 米子市総合政策部人権政策課 TEL (0859) 23-5415 Eメール/jinkenseisaku@city.yonago.lg.jp

人権に関する市民アンケート結果 パート2

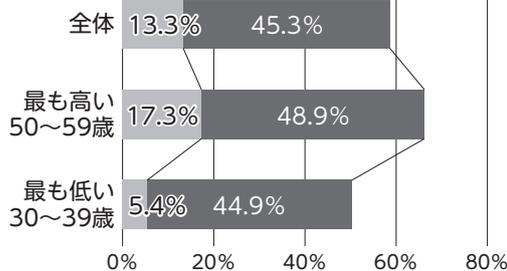
第39号(本年8月発行)に引き続き、昨年9月に実施した「人権に関する市民アンケート」(人権問題市民意識調査)の結果を、抜粋してご紹介します。

あなたは次のような行動をとることができると思いますか？

7つの設問項目について、行動をとることが「できると思う」「どちらかといえばできると思う」と回答した人の割合について、**全体の割合**と、**年齢別で割合が最も高かった年齢**と**最も低かった年齢**を掲載します。

ハラスメントの場面に居合わせたとき、やめるように注意する

■ できると思う ■ どちらかといえばできると思う



年齢別で最も割合が高かったのは「50~59歳」(66.2%)、次いで「60~69歳」(61.9%)でした。最も低かったのは「30~39歳」(50.3%) 次いで「20~29歳」(55.1%) でした。

ハラスメントについては、職場などで立場の弱い若い層の人たちが声を上げにくいのではないかと考えられます。

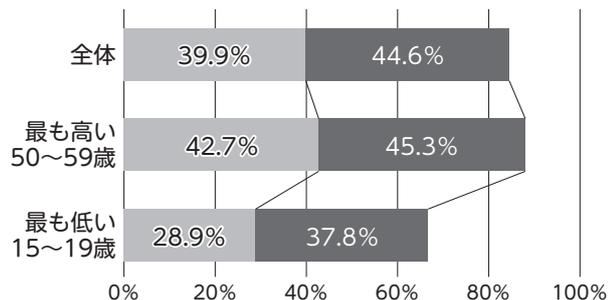
最も割合が高かったのは「50~59歳」(88.0%)、次いで「20~29歳」(87.6%) でした。最も低かったのは「15~19歳」(66.7%)、次いで「30~39歳」(81.0%) でした。

子どもの虐待などについては、相談機関や方法が周知され、相談しやすくなってきていることがうかがえます。

一方で、「15~19歳」の割合が低くなっており、子どもや若者が相談しやすい体制づくりが必要だといえます。

子どものいじめ、体罰、虐待などに気づいたとき、関係機関に相談する

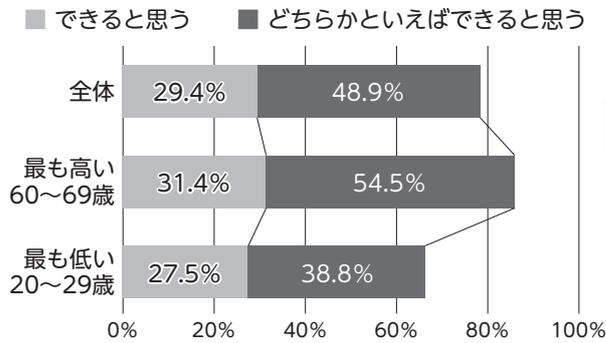
■ できると思う ■ どちらかといえばできると思う



あなたは次のような行動をとることができると思いますか？



災害時に、地域の高齢者や障がいのある人など、避難に困難を抱える人の避難について気を配る



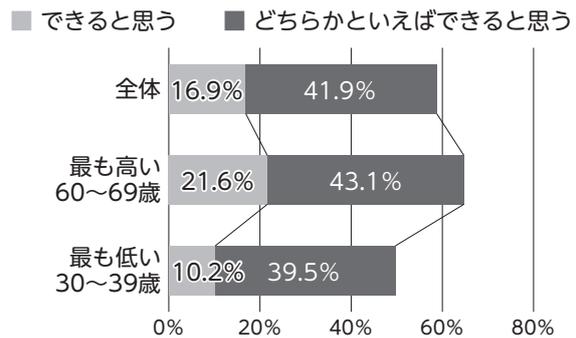
最も割合が高かったのは、「60～69歳」(85.9%)、次いで「70～79歳」(81.1%)でした。最も低かったのは「20～29歳」(66.3%)、次いで「30～39歳」(68.7%)でした。

どの年齢でも6割以上の方が災害弱者の人たちの避難に気を配るように行動できると思うと回答しており、地域での協力体制をどう強化していくかが今後の課題といえます。

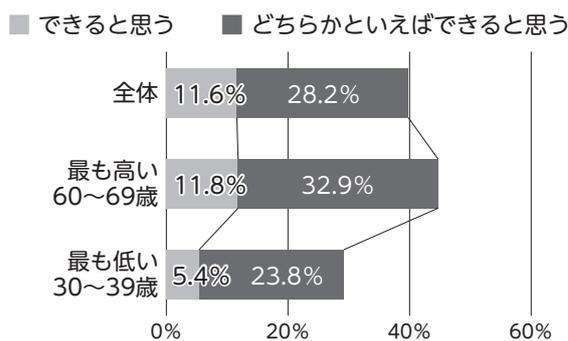
最も割合が高かったのは「60～69歳」(64.7%)、次いで「20～29歳」(63.8%)でした。最も低かったのは「30～39歳」(49.7%)、次いで「40～49歳」(52.6%)でした。

今後も、多くの外国人が地域で共に暮らすことになると考えられます。同じ地域に暮らす住民同士として、お互いに認め合い、理解を深めることが大切です。

地域で暮らす外国人と積極的にコミュニケーションをとったり、お互いの文化を理解し合えるようにする



インターネットの掲示板などで差別書き込みを見つけたとき、関係機関に通報する



最も割合が高かったのは「60～69歳」(44.7%)、次いで「50～59歳」(43.5%)でした。最も低かったのは「30～39歳」(29.2%)、次いで「20～29歳」(35.1%)でした。

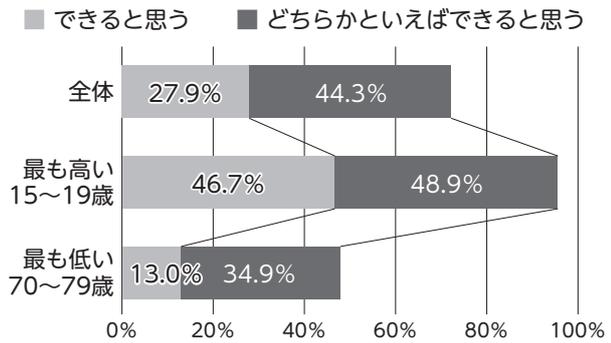
全体的に、できると思うという回答が低くなっており、関係機関へ通報する方法が知られていないことがうかがえます。関係機関へ通報し、削除依頼を行う方法の周知が必要だと考えられます。

最も割合が高かったのは「15～19歳」(95.6%)、次いで「20～29歳」(91.3%)でした。最も低かったのは「70～79歳」(47.9%)、次いで「60～69歳」(67.5%)でした。

年齢層が低いほど、肯定的な回答が多くなっており、性的マイノリティへの理解が進んでいることがうかがえます。

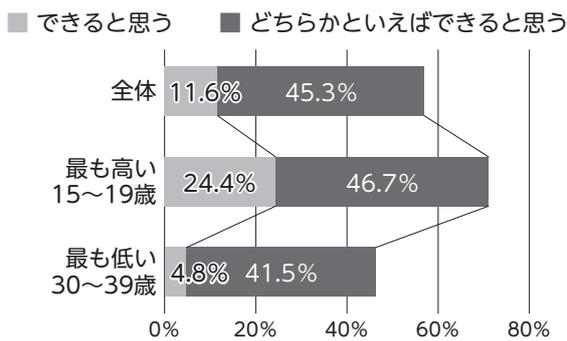
今後は、年齢層の高い人たちへの理解をどう深めていくかが課題といえます。

身近な人から性的マイノリティであると告白(カミングアウト)を受けたとき、共感したり、支援する意思を伝える



*カミングアウトを受けて、そのことを本人の同意を得ずに他の人へ教えること(アウティング)はあってはならない行為です。アウティングは、ときには命に関わる重大な問題であることを認識する必要があります。

近所に刑を終えて出所した人がいたとき、地域の仲間として迎える



最も割合が高かったのは「15～19歳」(71.1%)、次いで「50～59歳」(61.3%)でした。最も低かったのは「30～39歳」(46.3%)、次いで「20～29歳」(52.5%)でした。

再犯防止の観点からも、刑を終えて出所した人や非行から立ち直った人を地域でどう受け入れるかを考えていく必要があります。

今回は、様々な人権課題に関係する場面で、「自分が実際に行動することができると思うか」という設問に、年齢層によって回答にどのような違いがあるかを紹介しました。結果をみると、人権課題によって、年齢層別で回答割合に大きな違いが出た設問がありました。(性的マイノリティ、刑を終えて出所した人、など)

また、別の設問に人権意識の高い回答の多い人権課題についても、自分のこととして行動できるかを質問した場合、「できないと思う」という回答の割合が高いものもありました。(外国人、インターネット、性的マイノリティ、など)

米子市では、今回の調査結果を受けて、いかに人権問題を自分のこととして考え、行動するかを、今後の啓発、学習活動等への課題として、生かしていきたいと考えます。



詳しいアンケート結果は、米子市人権情報センター、市のホームページでご確認いただけます。
<https://www.city.yonago.lg.jp/40682.htm>



第49回米子市人権・同和教育研究集会

入場
無料

～みんなで差別をなくし幸せな社会を実現しよう～

事前申込みが
必要です

皆さまの
ご参加を
お待ちしております



日時：2024（令和6）年1月25日（木）午前10時20分～午後3時
会場：米子コンベンションセンター 多目的ホール ほか

10:00	10:20	10:30	12:00	13:00	15:00
受付	主催者挨拶 基調提案	記念講演	昼休憩	分科会	

○10:30～12:00 記念講演：同和問題（部落差別） 〈会場：多目的ホール〉

演題 「子どもたちに部落差別をどのように伝えていくか？」

講師 北川 真児 さん（部落解放同盟兵庫県連合会 事務長）

池本 和浩 さん（部落解放同盟兵庫県連合会 青年部 事務局長）

○13:00～15:00 分科会

分科会1：共生社会・高齢者の人権

〈会場：多目的ホール〉

演題 「居心地よいコミュニティ（地域社会）とは」

講師 竹田 伸也 さん（鳥取大学大学院医学系研究臨床心理学専攻 教授）

分科会2：子どもの人権

〈会場：国際会議室〉

演題 「子どもをひとりの“人”として向き合う～こども基本法より～」

講師 北野真由美 さん（NPO法人えんばわめんと堺／ES代表理事）

分科会3：バイアスと人権

〈会場：小ホール〉

演題 「バイアス、ミナオス？—私、あなた、社会の『当たり前』を見直す—」

講師 岡 研司 さん（公益財団法人鳥取県人権文化センター 専任研究員）

【お申込み方法】

電子申請：右のQRコードからお申込みください

その他：お電話、FAX、Eメールで、「お名前」「連絡先」「参加希望の分科会」をお知らせください



主催：第49回米子市人権・同和教育研究集会実行委員会

お問合せ先：米子市人権政策課 ☎0859-23-5415 FAX：0859-37-3184 Eメール：jinkenseisaku@city.yonago.lg.jp

人権政策課・米子市人権情報センター
男女共同参画推進課・米子市男女共同参画センター “かぶりあ”

12月25日（月）“ふれあいの里”に移転します！

米子市人権情報センターは、移転に伴う書籍整理のため、下記の期間休館します。
ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。

12月4日（月）から令和6年1月31日（水）まで